

令和6年3月8日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立第九中学校
学校長 鴻野 祐子

令和5年度 目黒区立第九中学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

- (1) 第1回実施日時 令和5年 5月11日(木) 午前9時30分～午前11時30分
- ・授業観察
 - ・学校経営方針説明
 - ・協議(学校経営方針、教育活動など)
- (2) 第2回実施日時 令和5年10月12日(木) 午前9時30分～午前11時30分
- ・授業観察
 - ・協議(学校・地域行事、学校評価など)
- (2) 第3回実施日時 令和6年 2月 1日(木) 午前10時00分～午前11時00分
- ・学校評価結果の報告
 - ・協議(学校評価結果の質問、意見交換)

2 参加者

原町住区住民会議会長	稲田 芳和
原町住区住民会議青少年委員	青木 久雄
向原住区住民会議会長	松本 猛
本校元PTA会長	岩富 孝允

3 評価の結果等 ※四者・・・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	四者による学校評価アンケートの結果分析 ◎（成果）、●（課題）、 ●（成果と課題の両者を含む）	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見															
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>87.5</td><td>+1.9</td></tr><tr><td>生徒</td><td>93.3</td><td>-3.4</td></tr><tr><td>地域</td><td>78.0</td><td>+16.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>±0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	87.5	+1.9	生徒	93.3	-3.4	地域	78.0	+16.8	教職員	100	±0	◎一人ひとりの生徒に寄り添った学習指導や主体性を引き出す指導の工夫などの取組が保護者、地域に浸透してきた。 ●新年度の教員配置に変化があっても一層教育環境の整備を図ることが課題である。	・新校開校に向けた取組を生徒、保護者へ周知し合意形成を図りながら、教育活動の充実を推進する。 ・生徒の健全育成を第一に考慮し、謙虚に温かく接する教職員の雰囲気づくりに努める。	・落ち着いた雰囲気が学校内外で感じられる。 ・植栽の手入れもできているようで、これも生徒によい影響を与えている。
対象	結果	差																
保護者	87.5	+1.9																
生徒	93.3	-3.4																
地域	78.0	+16.8																
教職員	100	±0																

I 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>保護者</td><td>72.7</td><td>-11.2</td></tr><tr><td>生徒</td><td>83.1</td><td>-4.3</td></tr><tr><td>地域</td><td>76.0</td><td>+9.3</td></tr><tr><td>教職員</td><td>97.9</td><td>-2.1</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	72.7	-11.2	生徒	83.1	-4.3	地域	76.0	+9.3	教職員	97.9	-2.1	◎様々な機会に教育目標など説明できる教職員が多くなってきたことで、生徒、保護者の理解が進んだ。 ●生徒の学校生活における満足度の肯定的評価が 77.2%と 8.2ポイント下がった。通常の学校生活と教育活動への生徒の期待は大きい。より充実した生徒主体の教育実践が課題である。	・学校行事や日常の生徒会活動等において生徒が主体の自発的・自治的活動を組織的・計画的に推進する。 ・学校公開日の回数と期間を増やすことで教職員と保護者、地域との情報共有の場を広げる ・統合新校開放に向けた交流活動は、教職員全員で合意形成し、計画的に確実な実践を推進する。	・次年度への取組が大いに期待できる。 ・高校進学は多くの保護者が望んでいる。受験に対して引き続き親身で丁寧な進路指導を推進してほしい。
対象	結果	差																
保護者	72.7	-11.2																
生徒	83.1	-4.3																
地域	76.0	+9.3																
教職員	97.9	-2.1																
II 心の教育について ・道徳科（道徳）の授業の充実や児童・生徒の道徳的实践力の向上に向けた取組について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>保護者</td><td>73.7</td><td>+0.7</td></tr><tr><td>生徒</td><td>97.9</td><td>-0.8</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>±0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	73.7	+0.7	生徒	97.9	-0.8	教職員	100	±0	◎生徒の肯定的評価がとて高く良好である。資料や学習用情報端末を工夫して活用し、考える道徳科の授業を計画的に実践できた成果である。 ●生徒の現状を踏まえテーマの設定や年間指導計画を作成する。学年の教員全員が道徳科の授業を担当してアプローチを工夫することが課題である。	・全教員で道徳科の授業改善に努め、学年教員がローテーションして授業を担当する。 ・生命（いのち）の安全教育を具体的に実践して人権教育の視点から健全育成に努める。 ・地域活動やボランティア活動に積極的に参加させ、道徳的实践力の向上を図る。	・生徒の充実度の高さに驚いています。 ・企業でもメンタルヘルスの問題がある中、状況に応じて生徒をより早く専門機関に繋げることも必要になってくる。学校と家庭で連携をしっかりとってほしい。			
対象	結果	差																
保護者	73.7	+0.7																
生徒	97.9	-0.8																
教職員	100	±0																
III 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、	◎上級生が授業に取り組む姿勢や学級集団の雰囲気が一段と良くなりよい伝統の一つとして生徒間で引き継がれている。 ◎1学年の交流活動と	・学習用情報端末の適正管理と利活用を推進する。 ・ICT機器を効果的に活用し、教科教室の環境整備を行い、授業改善の充実を図る。 ・全教員間で年3回実	・保護者にとって大変気になる事、肯定的評価の年度比較が下回っているが、生徒と保護者の受け取り方に差があっても当然だと思います。 ・インプットとアウト															

自然宿泊体験教室、 キャリア教育等の充実 について	して合同実施した自然 宿泊体験教室は、 概ね全員がスキー実 習は楽しいと感じる ことができた。 ●「考えることが面白 い」と感じて、生徒が 主体的に学びを深め ることができるPD CAサイクルを推進 することが課題であ る。	施する相互授業観察 の充実を図りより具 体的な授業改善を目 標に教員研修に努め る。	プットという考え方 が大事だと思う。アウ トプットが苦手な生 徒が多いと感じる。 ・新校開校に向けた1、 2年生の交流活動は、 一層充実させてほし い。
Ⅳ 体育・健康教育につ いて ・体力向上、健康の促 進に向けた取組について	◎昼休みは7割以上の 生徒が外遊びする習 慣があり、体力向上 に繋がった。また、体 育的行事は、生徒主 体で企画運営するこ とで生徒の体力や達 成感を高められた。 ●1～2月は新型コロ ナウイルス感染者と インフルエンザ感染 者が確認された。引 き続き感染症対策と 通常の教育活動の両 立を意識して健康の 増進を図ることが課 題である。	・体育的行事における 生徒の体力向上に重 点を置き年間を通じ 全校体制で取り組む。 ・学校2020 レガシーの 取組を計画的に実施 して生徒の心に多様 なレガシーを継承す る。 ・目黒区連合体育大会 における代表選手の 選出は、保健体育科の 授業で生徒に呼び掛 け、全種目で出場実現 を目指す。	・コロナ禍明け現状で も体力が向上してい ることは評価できる。 ・来年は「最後の九中 生」という言葉がつき ます。体育祭や目黒区 連合体育大会での生 徒主体の活躍に期待 したい。
Ⅴ 特別活動について ・学校行事の充実、異学 年交流活動、クラブ・ 部活動の活性化などにつ いて	◎「学校行事や生徒会 活動、部活動では充 実感を得ていますか」 で生徒肯定的評価の 割合が93.1%と 高く良好である。外 部指導員も含め、全 教職員で組織的・計 画的に指導を継続で きた成果である。 ●部活動の活性化につ	・新校開校に向け、交流 活動を実施している ・生徒主体の学校行事 や生徒会活動、部活 動を推進するとともに、 充実感を高め、工夫あ る活動を実践するこ とで、部活動の更なる 活性化に繋げていく。	・新たな事に全力でチ ャレンジしてほしい。 ・部活動に所属せず地 域クラブチームで活 動している生徒の現 状等についても共有 しながら統合新校の 部活動に繋げてほし い。

	いて保護者の期待が大きい。新校開校を踏まえて部活動の取組を整理し、一層の充実を図ることが課題である。																	
Ⅵ 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>保護者</td><td>84.8</td><td>-1.9</td></tr><tr><td>生徒</td><td>95.9</td><td>-0.8</td></tr><tr><td>地域</td><td>72.0</td><td>+11.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>+4.0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	84.8	-1.9	生徒	95.9	-0.8	地域	72.0	+11.5	教職員	100	+4.0	◎昨年同様に、四者の肯定的評価が高く概ね良好と言える。生徒が自主的に朝読書に取り組む習慣が定着したことが成果である。 ●特別支援教育は、個別指導計画に基づき専門員や支援員等と協働して組織的・計画的に指導できているが、不登校傾向に陥る生徒及び保護者対応に課題がある。	・生徒の成長を支える視点をもち、礼儀や感謝、授業等を大切に育てる心を育てる。 ・校則や身だしなみについては、生徒や保護者と連携しながら見直しを継続していく。 ・新校開校に向けて、学校上位目標を基に生活規則の決定を図る。指導の確認事項の共通理解・共通実践を図り、生徒に寄り添った生徒理解に努める。	・多様な対応が求められる特別支援は成果が上がるよう粘り強く指導願いたい。 ・校則が厳しいと感じる。ある程度の秩序は必要だが、生徒の主体性や個性を大切にしてもらいたい。
対象	結果	差																
保護者	84.8	-1.9																
生徒	95.9	-0.8																
地域	72.0	+11.5																
教職員	100	+4.0																
<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>保護者</td><td>59.6</td><td>-18.6</td></tr><tr><td>生徒</td><td>96.5</td><td>-0.2</td></tr><tr><td>教職員</td><td>95.7</td><td>-0.3</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	59.6	-18.6	生徒	96.5	-0.2	教職員	95.7	-0.3	◎防災教育・安全教育について、生徒の肯定的評価が96.5%でとても高く良好と言える。特に様々な活動や訓練に真剣に取り組んでいる生徒は99.3%で高い。全教職員で日常より災害に対する危機管理意識を高く保ちながら、生徒指導を推進できた成果である。 ●保護者の肯定的評価が59.6%で18.6%減少した。保護者の回答で「判断できない	・安全指導や避難訓練は、様々な場面や状況を設定し、確実に自助・共助が行えるように訓練を実施する。 ・外部機関と連携して生徒体験型の防災教育を実施していく。 ・新校開校に向けて、両校の実践を共有しながら防災教育・安全教育の取組を精査していく。	・地域の力を活用し、保護者と連携した教育など実施方法を工夫した防災教育を行うことで、防災意識を高めてもらいたい。 ・学校公開日に避難訓練を行うと保護者は学校の様子が分かりやすい。 ・新校舎の完成までは、特異な訓練も考慮してほしい。			
対象	結果	差																
保護者	59.6	-18.6																
生徒	96.5	-0.2																
教職員	95.7	-0.3																

	と」回答した割合は28%と多い。保護者へ安全教育の情報発信を図ることが課題である。														
<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>79.8</td><td>+0.5</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>+4.0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	79.8	+0.5	教職員	100	+4.0	◎中学生が小学校へ出向き、小中連携あいさつ運動を3日間実施できたこと、小学校の5、6年生全員が九中紹介（授業と部活動の説明見学会）に参加できたことが成果である。 ●新校開校に向けて、移行期の取組を協議調整しながら関係校と連携を図ることが課題である。	・小中連携活動として、あいさつ運動、九中見学会（授業、部活動見学）、子ども会議、校内展作品交流等を通して、児童・生徒の交流、教員同士の交流を図る。 ・いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議は小学校5、6年生全員と中学校2年生が参加して実施する。	・来年度の新入生保護者説明会は、統合新校の学校生活や部活動開設等について紹介するとよい。			
対象	結果	差													
保護者	79.8	+0.5													
教職員	100	+4.0													
VII 情報の発信、家庭・地域との連携について ・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA活動の充実などについて <table><tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr><tr><td>保護者</td><td>65.7</td><td>-10.4</td></tr><tr><td>地 域</td><td>74.0</td><td>+15.0</td></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td><td>+4.0</td></tr></table>	対象	結果	差	保護者	65.7	-10.4	地 域	74.0	+15.0	教職員	100	+4.0	◎情報発信について、地域の肯定的評価が昨年よりの15.0%上がった。学校だより記載内容の工夫や、定期的な住区会議へ参加できた成果である。また、学校ホームページを通じて毎日教育活動の情報発信ができた。 ●次年度は学校閉校を迎える。本校の保護者及び地域関係機関と協働し合意形成を図りながら学校閉校に努めることが課題である。	・教育活動を周知、理解してもらうために情報の発信方法を工夫する。 ・新しい連絡システムや学習用情報端末の活用方法について、必要に応じて改善を図る。 ・学校閉校と新校開校に向けたPTA活動の取組を、関係校と連携して計画的に推進する。	・次年度に閉校を迎えることについて、保護者や地域と情報を共有していく。 ・学校の情報については、教員の負担とならないように、更に方策を考えて保護者と地域に発信・浸透させてほしい。
対象	結果	差													
保護者	65.7	-10.4													
地 域	74.0	+15.0													
教職員	100	+4.0													

Ⅷ 教員の人材育成について ・ 日常の職務をとおして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>教職員</td><td>91.3</td><td>-0.7</td></tr></table>	対象	結果	差	教職員	91.3	-0.7	◎肯定的評価が 91.3%で良好と言える。学年主任、分掌主任を中心に風通しよく組織的に協働することが定着してきた成果である。更に服務厳正に努め、個々の教職員の特性が伸張できる環境づくりが課題である。	・ 校内研修会組織の活性化を図り指導力及び専門性の向上に努める。 ・ 職層ごとに OJT の役割と目標を明確化して計画的に人材育成を推進する。	・ 教員が組織的に動くことは、学校として大切である。 ・ 新校開校に向けて、全教職員が更に連携を高めてもらいたい。
対象	結果	差							
教職員	91.3	-0.7							
Ⅸ 教員の働き方改革について ・ 校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について <table><tr><td>対象</td><td>結果</td><td>差</td></tr><tr><td>教職員</td><td>82.6</td><td>-1.4</td></tr></table>	対象	結果	差	教職員	82.6	-1.4	◎働きやすい、相談しやすい、休暇を取得しやすい雰囲気づくり、心理的安心を保てる職場環境づくりに取り組み、教職員が概ね意識できた。更に働き方改革実行プログラムに沿って、業務を適切に仕事分担していくことが課題である。	・ 校務の優先順位や効率化を常に教職員が意識する環境を整備する。 ・ 教職員の長時間時間外勤務減少を目指し、出退勤管理システムを活用し、その改善に努める。 ・ 部活動における生徒指導や生徒引率等は、複数顧問を配置し、分担しながら取り組んでいく。	・ 教職員のメンタルヘルスに関して、保護者や地域の関心を高め必要があれば直ちに医療と結びつける体制を整えておく。
対象	結果	差							
教職員	82.6	-1.4							